市町村名	久米島町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－④	久米島特産品販路開拓事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(12)－ウ 特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２５～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(4)
事業内容	本町特産品の販路拡大及び若手後継者の育成を図るため、流通・商品開発専門の外部アドバイザーやコーディネーターを配置し新商品の開発や既存商品のデザイン等の改良等を行う他、知名度向上のため県内・県外での開催される物産展への定期的な出店やビジネス戦略等の研修会等を実施した。				
実施方法	□直接実施　■委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	44,575				
	(b) 予算現額	44,575				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	44,575				
B. 執行済額		37,600				
うち交付金充当額		30,080				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		84.4%				
予算の状況の説明		・不用額6,975千円が発生しているが、必要経費を見直したことによる委託料の減である ・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度（2-③）	27年度（2-③）	28年度
・外部アドバイザーを設置し、商品の洗練化と差別化を図るとともに久米島在住のアドバイザーを育成する。	目　標	（アドバイザー育成）	（　）	（　）	（　）
	実　績	アドバイザー育成(1名)			
・久米島商工会が実施する商品開発・販路拡大の支援	目　標	（団体への支援）	（　）	（　）	（　）
	実　績	久米島商工会への支援			

達成状況説明
・外部アドバイザーを設置し、食品・流通関係専門家を招聘し、事業所に対する新商品開発・改善改良及び販路開拓等の支援を行った。
・商品開発のノウハウや手法についての実習等、久米島のモノ作り、販売を担える、久米島在住のアドバイザーの育成に取り組んだ。
・久米島統一ブランドのパッケージ開発した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（年度）	25年度	26年度（2-③）	27年度（2-③）	目標値（27年度）
・食品製造業者の育成及び指導（10社）	目　標	（　）	（10社）	（　）	（　）	
	実　績		10社			
・久米島在住のアドバイザーの育成（1名）	目　標	（　）	（1名）	（　）	（　）	
	実　績		1名			
・商品開発・販路拡大の支援（7件）	目　標	（　）	（—）	（　）	（　）	
	実　績		—			
【参考指標】・久米島印販売額	目　標	（　）	（　）	（4,200千円）	（5,100千円）	5,100千円
	実　績			3,284千円	4,096千円	4,096千円
【参考指標】・改良商品販売額	目　標	（　）	（　）	（2,600千円）	（2,700千円）	2,700千円
	実　績			1,990千円	2,281千円	2,281千円

進捗状況説明
●平成25年度に商品開発1件及び改良商品10件、合計11件を商品開発・改良し販路拡大に取り組んだ。
●久米島の製造業者10社が参画して、統一規格・統一デザインの容器（紙筒7種・瓶3種）「沖縄久米島印」を開発した。3年計画で容器の改良を加えながらブラッシュアップを行った事により除々に売上が伸びており、目標を概ね達成することができた。
●商品によりバラツキが見られるが知名度の高いみそクッキーや塩ちんすこう、紅芋ステックは好調であるが、瓶の3種（青パパイヤ酢・飲みやすくなったノニジュース・泡盛25度）が苦戦している。
●リーフレット（商品の特徴、商品を使用したレシピ等）を作成し、商品を組み合わせた料理の提案を行い、セット販売を行った。
●久米島の製造業者8社が参画して、既存の久米島特産品のパッケージやデザイン・容器に改良を加えた改良商品については、改良前に比べて全体的に売上が伸びている。【H25（改善前）約52万円　→　H26(改善後)　約199万円　→　H27　約228万円）】
●特に、塩ちんすこうはデザインの評価が高く改良前の3倍以上の売上【H25：113千円　→　H27：522千円】となっている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	Ⅰ．商品開発・改良について ①平成25年度から3年計画で取組んだ「沖縄久米島印」の商品について、商品のニーズ調査等により容器の改良を加えてブラッシュアップを行い、久米島のブランド商品として確立に向け引き続き取り組んでいく。 ②改良商品については、改良前に比べ売上が5倍増となり、成果が得られた。 Ⅱ．販路及び販売拡大について ①久米島の入域観光客が年間10万人を突破して、今後も順調に伸びることが期待されており、「沖縄久米島印」「改良商品」を来島した観光客に対して販売を強化していく。 ②平成27年度の全国商工会連合会の単年度事業として期間限定で、東京都杉並区の「阿佐ヶ谷パール商店街」に久米島のアンテナショップを設置して、久米島の特産品を販売したところ、よい評価をえることができた。	Ⅰ．販路及び販売拡大について ①「沖縄久米島印」については、開発当初課題としていた販売価格が、容器の改良等により、一部の商品で価格の低減化に繋げることができた。今後は、島内での取り扱い店舗の拡大及び、商品の強みであるギフト商品としての販売強化を図る。 ②「改良商品」については、好調な商品（塩ちんすこう）を中心に、久米島物産公社と連携して新たな取引先に提案する。 Ⅱ．販路及び販売拡大について ①東京のアンテナショップに代わる首都圏での販売拠点の開拓に取り組む。また、県内外で開催される販売会、那覇市内のアンテナショップ「離島マルシェ」での販売をさらに強化していく。 ②久米島町内のお土産品店、那覇市のアンテナショップ「離島マルシェ」において、商品をPRし販売強化に取り組む。

今後の取り組み方針

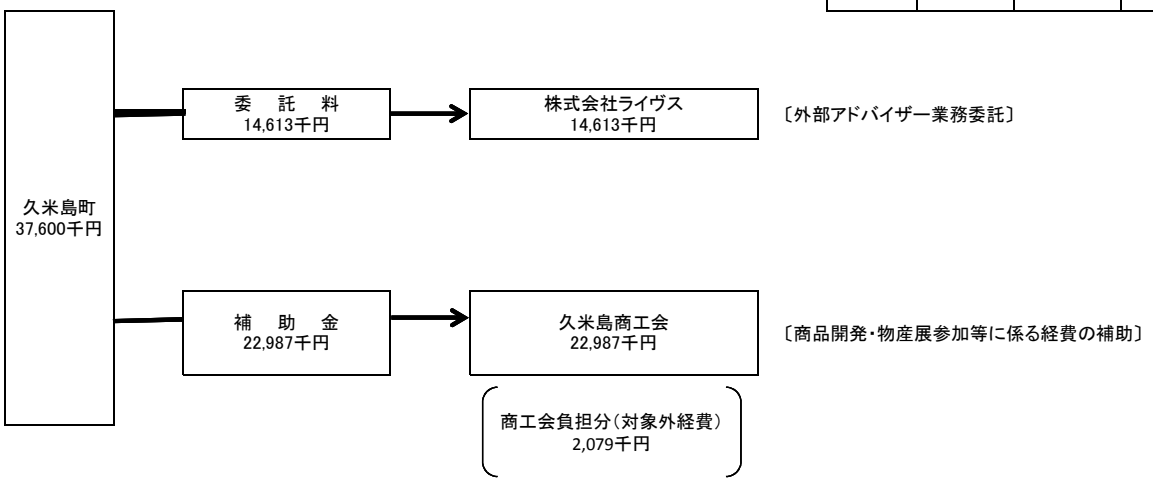
平成25年度より、3年計画で取組んだ商品開発事業により、「沖縄久米島印」9種類・改良商品11種類・紅芋商品3種類を開発することが出来、販売高についても目標を概ね達成することができた。今後も、開発した商品について島内外での販路及び販売の拡大を目指していく。

Ⅰ．「沖縄久米島印」の販売について
①現在、島内においてはホテルでの販売が順調であるが、久米島の空港売店については、店舗の都合により、品揃えが少ないことから販売に繋がっていないのが現状である為、久米島物産公社と連携して、空港売店の販売体制を強化し、品揃えを充実させることで販売の拡大に繋げる。
②ホテルにおいて「沖縄久米島印」が年末のギフト商品として採用され、好評を得た実績などをもとに、久米島物産公社と連携してギフト商品化について、島内の企業等に提案し販売拡大に繋げる。
③ブラシュアップにより、価格が調整されていることから、久米島物産公社と連携して、島外の卸問屋および小売店舗へ再提案を行い販路開拓を継続する。
④久米島物産公社と連携して県内外での物産展やイベント等での販売強化を図る。

Ⅱ．「改良商品」の販売について
①久米島物産公社と連携して県内外での物産展やイベント等での販売強化を引き続き図っていく。
②久米島物産公社と連携して島外の卸問屋及び小売店舗て引き続き提案していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
40,309	37,600	30,080	7,520	2,709



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○予算規模は特産費販路開拓等に必要な経費であり適正な規模であった。 ○受益者負担については商品開発等に必要な経費について負担しており妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	